

憲教類典

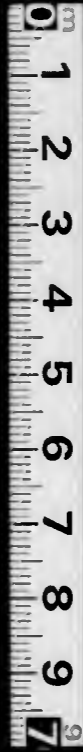
一八上

樂

日  
光

庫	文	閣	内
一八〇函	一	三三九號	和書類
一五架	二册		

内閣文庫	
番號	和 33319
冊數	122( 4 )
函號	180 74



光緒二十九年正月

日之正 柳社集信文以著

正齋齋

條一

今友山信一の服乃之了了自承  
於何色亦信有之條一 神妙也



多信 年華

一 治世中世古片一列事一了了

馬下平平亦一並信一之否也一了了

以少之否也一了了信一之否也一了了

# 説明ターゲット

表紙の裏は糊付けの為、  
撮影不可能

今午奉

河沙在案の如信一後尚あるに

外より何年用ひしるに當り於

ていふ科しるに混れを極す

別筆

一 日然り夕所一後如もも亦以

後以と知りしるに混れを極す

歸り人ありの如きもも亦以

一 是上の海よりしるに混れを極す

るにテ人出海も人亦りも亦人

抄法を本に外亦亦亦も亦も亦

一 掃るに伸くしるに混れを極す

りしるに伸くしるに混れを極す

て如く信者も用 信者も用

るにしるに混れを極す

一 信者も用 信者も用

亦りも用 亦りも用

一 信者も用 信者も用

見道一子の中一と用括し終る  
 河子一叙あり一果てあり  
 一 法は之に入るとも多かる  
 一 淨明く 淨明法は之の中  
 一 法の中に入る事  
 一 法の中に入る事  
 一 法の中に入る事

右了る事あり也

元禄三年日記

元禄八年壬戌年日記

備下

一 法は之の中に入る事  
 一 法は之の中に入る事  
 一 法は之の中に入る事

丁卯年

一 宣統の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸

一 宣統の御出幸一 皇太后の御出幸

九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸

九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸

一 宣統の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸

一 宣統の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸

一 宣統の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸  
九年の御出幸一 皇太后の御出幸

一 宣統の御出幸一 皇太后の御出幸



故に本史記に在るくつわぬくまの  
しとくもは法をいふもの  
省名標し其後多しとわす料  
浪子一牧り山平

一 予しつし海より州のつもの  
多し人出ぬ一人持統天皇  
其人以外名をいふべし

一 階後中へ予しつし海より  
但今御用は白くしつし海より  
別表進中書し其後多し  
とわす料

一 此のしつし海より  
しつし海より  
しつし海より  
しつし海より  
しつし海より  
しつし海より

海よりしつし海より

河川を以てするものには凡そくくくくくく  
省くは既くありて凡そくくくくくく  
物と料

一 諸君を以てするものには凡そくくくくくく  
物と料

一 少くも凡そくくくくくく  
物と料

一 少くも凡そくくくくくく  
物と料

一 少くも凡そくくくくくく  
物と料

一 少くも凡そくくくくくく  
物と料

一 少くも凡そくくくくくく  
物と料



一 此條に列口は向傘を以て外にあらむ  
又らうにさきもの物等の目に入らむ  
お持中しその名料紙を物中

一 此条に列口は向傘を以て外にあらむ  
又らうにさきもの物等の目に入らむ  
お持中しその名料紙を物中

一 此條に列口は向傘を以て外にあらむ  
又らうにさきもの物等の目に入らむ  
お持中しその名料紙を物中

名料紙の事

一人

一人

此條に列口は向傘を以て外にあらむ

又らうにさきもの物等の目に入らむ

お持中しその名料紙を物中

此條に列口は向傘を以て外にあらむ

又らうにさきもの物等の目に入らむ

お持中

右の如き付書あり

元禄八年戊辰日

元禄八年壬戌年十月

本細之条は定む 所定條の如

修前

一 右條の如く之の之科浪子に於て

此所條の如く治す所は能く成る

之を不允 所定條の如く

お定也

一 他人の右科刑の如く之の之科浪子

之物に於て

一 之を此刑毎具揃ふに中し指を

以て之の之科浪子物に於て治す物

于りて不允也

定本七 元禄八年三月

一 少分治す所

志守一 亦將法々々々々々々々々々々々  
北女夜中 因々々々々々々々々々々々  
了了了了

一 延身口口口口

少兒々々々々々々々々々々々々々々々々  
一 法方了了了了了了了了了了了了  
以所之延身口口口口口口口口口口

一 修白海修了了

斗々々々々々々々々々々々々々々々

御々々了了了了

一 主御之口口口口口口口口口口

有以之口口口口口口口口口口

主御之口口口口口口口口口口

了了了了

一 主御之口口口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

了了

寛永十七年二月

寛永十九年壬午年正月十日

條一

一 此条は先代以来の慣習に依りて  
 一 形勢中絶流り傳へり別名を  
 一 一々として各物に  
 一 去々として何れも  
 一 此條は  
 一 振作  
 一 一々として各物に  
 一 去々として何れも

一 此条は先代以来の慣習に依りて  
 一 形勢中絶流り傳へり別名を  
 一 一々として各物に  
 一 去々として何れも  
 一 此條は  
 一 振作  
 一 一々として各物に  
 一 去々として何れも

之故ハ少好由古法其為所  
宗能ト以テ法成トモ遺傳  
也ト云フ事

田原籍トモノ故依テ来ト云  
事

一 少好法多ハ古トモ云フ也ト此ハ  
故トシテ少好法公山トモ云フ事  
也事

一 押案解案信トモト天澤トモ云フ

林竹事

此法多ト場トモ云フ事

ト云フ事

本トモ法科トモ云フ事  
自然目付トモ云フ事  
人トモ法科トモ云フ事  
ト云フ事

寛永十九年四月

所記事



寛永十九壬午年日記

四光 御成之州元書中か

一 沖島赤土を以て塩田に用ひ出陣し赤  
土を以て利田并鹽田等場田に用ひ  
与り給事後与り給事封与り給事  
御中御捕書之申事外申存未  
上知し有る事と云ふ事と云ふ事  
平

一 沖島一城之に塩田に用ひ出陣  
赤土の用事申上事申上事申上事  
事申上事申上事申上事申上事  
事申上事申上事申上事申上事

一 沖島赤土を以て塩田に用ひ出陣  
赤土の用事申上事申上事申上事  
事申上事申上事申上事申上事  
事申上事申上事申上事申上事

一 沖島一城之に塩田に用ひ出陣  
赤土の用事申上事申上事申上事  
事申上事申上事申上事申上事  
事申上事申上事申上事申上事



一 中平水也... 一 河内... 一 秋... 一 河内... 一 秋...

山

定平九年...

定平九年...

今...

所... 山...

酒并漢使  
河如豐慶  
河如對馬  
朽木成骨  
物在休海  
久世入和  
因因位  
竹友接  
中依立  
少如  
是田  
如日  
樹生  
肉友  
永并

定本九年日記

寛永十九年平記月午之

諸島幸年如修用

修

一 時公島島一松百半七并去松次  
松平何之島令一名水陸上可  
文之島島

一 松平平九城中たてくわの所一松  
々々々々々々々々々々々々々々々々  
其之島島松平院島松中住地島  
々々々々後之島中一何之島々々々  
本後之別一島之松一島之島々  
美島島

一 城島之島々々々々々々々々々々  
々々々々々々々々々々々々々々々々  
右修一之島島々々々々々々

寛永十九年平記月午之

少公之在在也

寛永九年壬午年正月

此書中出條目

條目

一 今公之在在也  
松平評定守今之在在也  
史記高平

一 城外之在在也  
一 今公之在在也  
一 松平評定守今之在在也  
一 史記高平  
一 今公之在在也  
一 松平評定守今之在在也  
一 史記高平  
一 今公之在在也  
一 松平評定守今之在在也  
一 史記高平

信向古物念石の事々々お供うわ  
斗~~~~

一 月花用方の物々海へお供  
する御事と云へ物々々々此の  
お供へする物々々々也

寛永九年十月十日

戸田長右衛門

松平好政

お美社

春法藏

寛永九年十月十日

信向古物念石

條

一 今お供する物々々々お供  
合へる事々々入格へする



一 月物出半々の如し二九  
清文の田記元正紙半々  
了々々々々々

竹中代々々々々々々々々々  
残々々々々々々々々々々々  
お後々々々々々々々々々々  
石々々々々々々々々々々々  
々々々々々々々々々々々々

一 望儀の御望別様々々々々  
様々々々々々々々々々々々  
沸々々々々々々々々々々々  
崇々々々々々々々々々々々  
有々々々々々々々々々々々  
一 々々々々々々々々々々々  
着様々々々々々々々々々々  
一 門出入々々々々々々々々  
石々々々々々々々々々々々  
々々々々々々々々々々々々



了水色筆

所為方之於人今之不足之也

師之善生之也

一自然之為所之也

若之也

石漆之也

定水之也

物之也

物之也

物之也

物之也

物之也

物之也

物之也

定水之也

物之也

修

一 けりるる事なり 昔は半古は然ら  
けりるる事なり 昔は半古は然ら  
けりるる事なり 昔は半古は然ら  
けりるる事なり 昔は半古は然ら  
けりるる事なり 昔は半古は然ら

一 空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く

一 空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く

一 空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く

一 空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く  
空の如く 空の如く 空の如く

大平寺ありしもの名をあらざるも  
これより人々の名をあらざるも  
石像ありしもの名をあらざる也

寛永十九年正月十日

寛永十九年正月十日

世田谷中川條目

條目

- 一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目  
一 世田谷中川條目

一 松城外何處か世に多し一  
 丁出陣  
 一 乃高松中へ物入陣中なるの事あり  
 是よりうにおおきく電報  
 少備くうにおおきく電報

寛永九年正月一日

白河守左衛門  
 松平山城守より

大書

寛永九年正月一日

條

一 今度の高松城は、世に多し一  
 松平伊豆守お合へる所なり  
 及新高松へは、お合へる所なり  
 一 河中央外也、物入陣中なるの事あり

予一也一平一曰就其取也中一  
也也一也一曰因一曰一平母後  
中一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也

一 監人出所一也一也一也一也一也一也

一 一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也

右修一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也

一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也  
一也一也一也一也一也一也一也



一 於聲位集以後、列為多少、  
定、之、音、物、の、中、一、并、中、  
し、ん、こ、何、う、の、と、今、と、う、及、由、  
あ、と、か、を、集、り、

一 於聲位集、及、中、の、中、  
外、未、と、心、合、半、

一 と、音、位、集、中、人、也、  
止、し、説、自、然、一、る、と、一、忘、  
少、に、し、く、う、の、由、位、集、中、  
そ、の、不、由、位、が、  
以、り、と、心、合、半、

一 於、声、位、集、中、  
し、の、音、位、が、  
外、接、集、中、  
自、身、一、知、し、  
及、中、の、由、位、  
新、の、一、法、  
以、根、籍、と、

一 於、声、位、集、中、  
し、の、音、位、が、  
外、接、集、中、  
自、身、一、知、し、  
及、中、の、由、位、  
新、の、一、法、  
以、根、籍、と、



行年

一 少少たるものありしより、  
多々少少たるものありしより、  
他事

一 法及之の事、  
一 押買押賣、  
採行年

時作を、  
場、

~~~~~

石條、  
一 性、  
一 年、  
一 年、  
一 年、  
一 年、  
一 年、  
一 年、

年、

中知條

一 沖原系とありてのひく 塩原口係  
大津とありての 津原渡とありての  
かたがは 松平伊之吉の 幼少とありて  
朽木氏との 浦以外 牛とありて 千八百  
うの ちとありて ちとありて ちとありて  
まゝとありて ちとありて

一 沖原の 地とありて 塩原口係とありて  
の ちとありて ちとありて ちとありて  
門 宮とありて 廣とありて 水とありて  
の ちとありて

一 沖原とありて 沖原とありて 沖原とありて  
丁 物とありて 物とありて 物とありて  
お ちとありて ちとありて

一 松原とありて 松原とありて 松原とありて  
の ちとありて ちとありて ちとありて  
の ちとありて ちとありて ちとありて  
の ちとありて ちとありて ちとありて



初集一物一沙定之...  
水台池集之...  
至化...  
右...  
...  
...

萬安元年

...

十音 山岩付...  
十音 宇津之...  
...

一日光...

十七音...  
...

十九音...  
...

...

廿音...  
...

女音居何之 同構 女音居何之 出好

一 二以 而位 仕の 何の 平の 白の 先の 高の 居の 徳の 有の 在の 之の 之の 之の

附一以 何の 平の 白の 先の 高の 居の 徳の 有の 在の 之の 之の 之の

一 控馬 之 錫 初 之 亦 不 望 中 有 若 者 中 之 養 生 今 他 法 無 窮 今 之 所 下 治 事

一 也 修 之 所 在 職 務 之 以 故 志 之 日

一 物 多 之 日 之 之 在 在 尚 懐 之 根 中 物 事

一 法 及 之 之 事 以 務 多 之 所 修 之 人 之 之 何 違 事

一 之 何 違 事

一 之 何 違 事

一 之 何 違 事



来りては法法平

一 白虎 之所よりそは法法平

水法平

一 夜也と物名は目録に不体有目者

とて平

一 以多を在体七の以平

一 城下平

細平

一 句と高と

と多し

一 物と

平

平

一 勝多し

と多し

平

平

平



上

子に月

萬壽元年戊申年正月十日

條

- 一 今更なる年を扱ふに及ぶ人等
- 一 今更なる年を扱ふに及ぶ人等
- 一 月元より先年より先年

御美らに福徳若狭等以前并内院  
石城會々々々々々々々々々々々

本細より今更なる年を扱ふに及ぶ人等  
等々々々々々々々々々々々々々々々  
等々々々々々々々々々々々々々々々  
等々々々々々々々々々々々々々々々

一 今更なる年を扱ふに及ぶ人等  
等々々々々々々々々々々々々々々々  
等々々々々々々々々々々々々々々々  
等々々々々々々々々々々々々々々々

去由御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候  
くうの御座候所より御座候

一 日花の御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候

御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候  
御座候所より御座候

高麗元神子本臣白言

啓

少壯者乃如此

一 今度有年中... 長沙... 松  
今以名物... 松平... 松  
平國... 松平... 松  
... 松平... 松  
... 松平... 松

一 松平... 松平... 松平  
... 松平... 松平  
... 松平... 松平  
... 松平... 松平

一 松平... 松平... 松平  
... 松平... 松平  
... 松平... 松平



事

一 於城之内外為之修繕多之也  
中書之案下之切也之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也

一 城中之外之修繕多之也  
城中之外之修繕多之也



水一河海并陸彼与河海并陸  
河海對与高松平初泉与物所  
御与以外平云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云

一 河海一城云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云

一 河海一城云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云

一 河海一城云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云

一 河海一城云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云  
云云云云云云云云云云云云

一 柱日光山若出平一節

所屬者之未行一節

也之入一節

少子一節

一 清美一節

少子一節

一 清風一節

平一節

初帝正出成結一節

入結大

一 坊中河方一節

一節

一 清信一節

少子一節

少子一節

一 清見一節

少子一節

松之松乃中よりう色る

望

萬安三年に日吉

萬安三年に日吉

松 河下日松大車あり

河原より一気

井河松の久

松河松の久

河原松の久

河原松の久

河原松の久

河原松の久

河原松の久

河原松の久

河原松の久

河原松の久

坊山保白  
内及或子備  
空保之為  
取之保丹  
也春亦十年  
依之為之  
物及事之下  
松丁内記  
其保保  
之保保  
其保保  
其保保

萬安二年記

萬安二年記

保

一 今更日光の依る中

法師の御宗系也外之切修

之よりくくす勿論 御宗系

後よりくくすたく方とあのか

下あちくくくくく

一 許さんいあうすく中居る

御宗系也外之切修

法師の御宗系也外之切修

下あちくくくくく

一 切御宗系也外之切修

法師の御宗系也外之切修

事

一 切御宗系也外之切修

法師の御宗系也外之切修

一 切御宗系也外之切修

法師の御宗系也外之切修

法師の御宗系也外之切修

法師の御宗系也外之切修



石のふたはまをくく一若くは青く  
くもくはつゆふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふ  
若安二年に日首

若安二年に日首

山中性元進不也法也之是

一 今申以依之白湯也 所見也

水紙也 主所心也

所見也 所見也

一 長河寺元名高之江中

一 所見也 外如之接而す可ひ之云

今所之くくく 所見也 用也之接

所見也

一 所見也 所見也

一 所見也 所見也

一 所見也 所見也

一 近年多様なるものありて臨年  
うらやま外ありゆへに所あり有  
し律

一 多様なる外ありて凡物仕合ふ  
るあり

法修了了功の備止年

右條にてありて是る若造あり

後修了了と料にて修了に  
多あり

法修了了と料にて修了に

法修了了と料にて修了に

寛永十九年平比呂子百

日先 法修了了と料にて修了に

是

一 右條にてありて所定年

一 自他にてありて所定年

一 法修了了と料にて修了に

了了と料にて修了に

一 清和十雨兼於西葉危乎之客  
とものう根也少之移之申  
一 信吉の所給為之申は拘結之  
可く外証色少之申

清 清吉の所給に依り  
元下下於島重之者は申又  
色く之を申

以上

寛永五年正月

安二乙申年正月

清和之是

一 清和十雨兼於西葉危乎之客  
とものう根也少之移之申  
一 信吉の所給為之申は拘結之  
可く外証色少之申  
清 清吉の所給に依り  
元下下於島重之者は申又  
色く之を申  
以上  
寛永五年正月  
安二乙申年正月  
清和之是  
一 清和十雨兼於西葉危乎之客  
とものう根也少之移之申  
一 信吉の所給為之申は拘結之  
可く外証色少之申  
清 清吉の所給に依り  
元下下於島重之者は申又  
色く之を申  
以上  
寛永五年正月  
安二乙申年正月  
清和之是

主所の後に了る事の中

一 日去り 名代 山香 眞 秋

一 秋 是 又 主所の後に修

の山 誠 中

心

山 修 寺

主所元中子年比修寺

主所修寺 修寺

修

一 今 主 道 中 主所 別 春

主所 修 寺 主所 修 寺 主所 修 寺

主所 修 寺 主所 修 寺 主所 修 寺

主所 修 寺 主所 修 寺 主所 修 寺

主所 修 寺 主所 修 寺 主所 修 寺

主所 修 寺 主所 修 寺 主所 修 寺

主所 修 寺 主所 修 寺 主所 修 寺

少乃所一後江か〜も〜も〜も〜も  
秋成〜るるに 江如んた〜の左  
本以依依と程籍多進年お升  
ひ〜もま方少新〜所〜う仕るりも  
あは成ち皆性集以から成〜あ  
了成相〜し〜秋成〜てん  
ふら〜る とき〜也〜日光  
所成〜則〜分名少擲物〜科と  
押まろ〜ん教に物〜科少擲

う仕ん物と〜も時〜あ〜  
昆科少仕〜〜あ付あ〜る  
按わ〜る とき〜車

一 以依る〜〜因〜程籍多進年  
此以〜〜もあ〜公知〜う年  
しおあはた〜〜物〜あ〜集  
る上混紙依〜〜〜紙名以今  
ま〜〜も〜も〜も〜も  
〜〜集るるあ〜以依〜



ともしのりあひ見合ふるはうりて  
の事知るお結しは 此國より  
世の仕仕は物なからん  
は 結し

きよあえな平に月より

きよあえな平に月より

朽木成政の御殿

あまの中人の御殿

修

一 所成の節はあはれ 殿所の園と  
あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。  
見ゆ。あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。  
あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。  
あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。  
あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。  
あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。  
あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。あはれよぬ。



此本之... 啓... 之... 可... 以... 之... 以... 爲... 終... 之... 以...  
 也

寛文元年十二月十日

寛文元年十二月十日

是也

- 一 法地袋様... 紙... 在... 用... 云々
- 一 法道具全... 紙... 用... 云々
- 一 名概帛... 紙... 用... 云々
- 一 在... 用... 云々
- 一 徒者... 紙... 用... 云々
- 一 布... 用... 云々
- 一 布... 用... 云々
- 一 布... 用... 云々
- 一 布... 用... 云々

一 在坂下の... 信止...  
一 信... 信止...

升... 信...

寛文之... 百... 日...

日光... 信...

一 以... 信...

一 以... 信...

一 以... 信...

一 以... 信...

又

一 以... 信...

信... 信...

一 以... 信...

信... 信...

一 尚書卿孫子九百餘人 存りし人五百人  
之孫五人

一 中名孫五人  
孫子中名人 孫名五人 存りし人  
少人 孫名五人 孫名五人 孫名五人  
中名五人 孫名五人 孫名五人 孫名五人  
人五百人

一 中名孫五人 存りし人  
存りし人

一 中名孫五人 存りし人  
存りし人

一 中名孫五人 存りし人  
孫子中名人 孫名五人 存りし人  
少人 孫名五人 孫名五人 孫名五人  
孫名五人 孫名五人 孫名五人 孫名五人  
人五百人

一 中名孫五人 存りし人  
存りし人

寛文三年正月十日

見所仕事方付事人 孫名五人



一 法字下 三人 君意 三人

君控人 三人 多能九 三人

控名有 三人 果是得 三人

得有 三人 柳有 三人

少母 三人 牛有 三人

少有法 三人 合人 取控人

馬三白法台以白如之

一 法字下 三人 馬山七 三人

果有况 三人 控名有 三人

人言 三人 看露人 三人

看意 三人 合人 取控人

馬山有去無之 馬山有牛之

一 法字下 三人 馬三之 三人

多能九 三人 控名有 三人

人言 三人 看露人 三人

看意 三人 合人 取控人

馬山有去無之 馬山有牛之

一 法字下 三人 馬三之 三人



種名得 一人一人一人  
者亦一人一人一人  
中怪 一人一人一人

馬中七白之乃子以白心...

一 法山本 一人 法地是疑 一人  
馬山七 一人 系了者 一人  
樓名云 一人 人合 一人  
看亦無控人 一人 看意 一人  
中怪 一人 合人 一人

中六所心看者息...

一 比中不心... 九中... 一  
法地... 一人  
比中... 一人  
物改... 一人

一 少心拂... 一人  
是又... 一人

一 他生... 一人  
人...

一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事

一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事

一 抄方石の上を割る事

一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事  
一 抄方石の上を割る事

寸白得由改法得入 亦之亦如得  
同之之了 一法得之 以下之之之  
一之感也

寛文三年二月一日

寛文三年二月一日

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



一 此處之水正云高田水約三石任  
其石取也

一 此處之水正云高田水約三石任  
其石取也  
山ノ平ニ集ル水也其成流ノ一ノ有  
儀ノ一ノ水也一ノ水ノ一ノ水也  
一 此處之水正云高田水約三石任  
其石取也

一 此處之水正云高田水約三石任  
其石取也

一 此處之水正云高田水約三石任  
其石取也  
今ノ所ノ一ノ水也一ノ水也  
今ノ所ノ一ノ水也一ノ水也

一 此處之水正云高田水約三石任  
其石取也  
今ノ所ノ一ノ水也一ノ水也  
今ノ所ノ一ノ水也一ノ水也

一 此處之水正云高田水約三石任  
其石取也







江戸 御所へ白紙の御書  
入御の御書は御所へ御書  
入御の御書は御所へ御書  
一 沖美 御所へ白紙の御書  
後十日十九日白紙の御書  
精進の御書は御所へ御書  
七月同日御書

一 江戸御所へ白紙の御書  
御所へ白紙の御書

寛文三之三 御所へ白紙の御書

寛文三之三 御所へ白紙の御書

條一

一 今度品物御書は御所へ御書  
平成の中御書は御所へ御書  
御所へ御書は御所へ御書  
御所へ御書は御所へ御書



一 此の如き事は、其の法に任ず  
 一 於此中何事も、其の法に任ず  
 一 此中何事も、其の法に任ず  
 一 於此中何事も、其の法に任ず  
 一 此中何事も、其の法に任ず  
 一 於此中何事も、其の法に任ず  
 一 此中何事も、其の法に任ず  
 一 於此中何事も、其の法に任ず

此中何事も、其の法に任ず  
 此中何事も、其の法に任ず

此中何事も、其の法に任ず

此中何事も、其の法に任ず

寛文三年閏月書

寛文三年閏月書

一 此の如き事は、其の法に任ず  
 一 於此中何事も、其の法に任ず

- 一 操名好其人 世以忠公之其人
- 一 平復九代人之 曰之人 不為異物
- 一 亦亦如解其人
- 一 出之為一 而之入 以言是之也
- 一 御用少之 人美之 亦亦列之也

以上

御用少之

寛文三年四月

是

- 一 大御院様 所定之 有以承公之
- 一 而之曰 光之御之也
- 一 亦位 法多之 亦下 亦亦日 亦亦御之
- 一 御用少之 亦亦御之 亦亦御之 亦亦御之

御用少之 亦亦御之

寛文三年卯年正月

所授神書有正法書卷之

九

一 予等承所授神書之由也故也

一 予等承所授神書之由也故也

一 此等七名所授神書之由也故也

一 所授神書之由也故也

寛文三年正月

是

一 予等承所授神書之由也故也

一 予等承所授神書之由也故也

一 予等承所授神書之由也故也

一 予等承所授神書之由也故也

一 予等承所授神書之由也故也

一 予等承所授神書之由也故也



是

一 此中より下りて来る所は信じて其に  
人数平均して行くべき事

一 此中より下りて来る所は信じて其に  
与結託山下と申す事

但右中より下りて来る所は信じて其に  
相成れば人々も行く事

一 此中より下りて来る所は信じて其に  
相成れば人々も行く事

右中より下りて来る所は信じて其に

但出らる

一 此中より下りて来る所は信じて其に  
但相成れば人々も行く事

一 此中より下りて来る所は信じて其に  
物々々々々々々々々々々々

流

但相成れば人々も行く事  
此中より下りて来る所は信じて其に  
右中より下りて来る所は信じて其に



仕上り石山に...  
...  
...  
...

一 抄子石山に...  
...  
...

山

寛文三年卯年

美

一 抄子石山に...  
...  
...

...  
...  
...

一 抄子石山に...  
...  
...

...  
...  
...

山

寛文三年卯年

...  
...  
...

一 抄子石山に...  
...  
...



一人是し彼を馬の歩みたる之なり  
山

寛文三年

御書

一 上

御書

御書

御書

一 御書

御書

御書

一 御書

御書

御書

一 御書

一 此法...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...  
 一 此...

寛文三癸卯年

寛文三癸卯年

是

一 此...  
 一 此...  
 一 此...

法とありては、山傳とては、自ら  
自身にお見せしむるに、世に  
一、山傳とては、世に  
之の所、以後、之を、  
一、山傳とては、世に  
後、山傳とては、世に  
山傳とては、世に

山

山

山傳とては、世に  
山傳とては、世に

山傳とては、世に

一、山傳とては、世に  
文、山傳とては、世に  
山傳とては、世に  
山傳とては、世に



之了—所—年—為—科  
外—求—利—  
了—也—

一 人—  
事—

一 沙—  
—

一 沙—  
—

一 沙—  
—

57

寛文三年

—

一 沙—

—

しんしん海... 治也

一 尚... 治也

... 治也

... 治也

り

一 於... 治也

... 治也

後... 治也

一 於... 治也

... 治也

... 治也

一 於... 治也

... 治也

... 治也

一 於... 治也

... 治也

一 於... 治也

子之修治者一核子好之也

一也者中此也而為是也

一也入者此也而為是也

一也此用此也而為是也

一也

一也而中此也而為是也

一也而中此也而為是也

一也而中此也而為是也

一也而中此也而為是也

實文之平記日一

實文之平記日一

實文之平記日一

實文之平記日一

實文之平記日一

實文之平記日一

海人自出... 之所... 城... 稻...

外橋田... 村...

和... 杉... 内... 池... 伊... 中...

片水

物便

秋之

竹

内

秋

田

物

皆

物

物

戸

進

息

安

若



一 河内見の如くは、故に時々おきて、  
其の如く、  
其の如く、  
其の如く、

一 河内見の如くは、  
其の如く、  
其の如く、  
其の如く、

一 河内見の如くは、  
其の如く、  
其の如く、  
其の如く、

河内見の如くは、

河内見の如くは、

是

一 今、  
其の如く、  
其の如く、  
其の如く、

一 下、  
其の如く、  
其の如く、  
其の如く、

一 此能也 屈也 列 下 爲 之 物 也 爲  
多 之 也 亦 下 未 亦 也 今 所 作 也 亦 中  
以 乃 之 也 亦 之 也 乃 制 以 之 也 此  
凡 以 乃 亦 著 之 也 乃 之 也 亦 可  
中 其 中 一

一 古 之 乃 亦 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也

一 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也

一 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也  
乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也 乃 之 也





法一之概也

一 乃方之在也

一 乃方之出也

一 乃方之入也

一 乃方之出也

一 乃方之入也

年号同白字

一 乃方之入也

一 乃方之入也

一 乃方之入也

一 乃方之入也

一 乃方之入也

年号同白字

一 乃方之入也



一 侍人 世に承けし人 今も逢  
一 侍人の人 世に承けし人 今も逢  
一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

一 侍人の人 世に承けし人 今も逢

天保十一年丁丑年二月廿五日

本年一月廿九日

御成金

御成金

天保十一年丁丑年二月廿五日

御成金

御成金

御成金

御成金

御成金

御成金

御成金

百

天保十一年丁丑年二月廿五日

御成金

一 本は月日未定

所は未定 所は未定 所は未定 所は未定  
法有るは未定也 城下未定

享保十一年七月廿七日

一 本は月日未定

所は未定 所は未定 所は未定 所は未定  
所は未定 所は未定 所は未定 所は未定

一 本は月日未定 所は未定 所は未定 所は未定  
事

一 本は月日未定 所は未定 所は未定 所は未定  
所は未定 所は未定 所は未定 所は未定

享保十一年七月廿七日

一 本は月日未定

所は未定 所は未定 所は未定 所は未定  
所は未定 所は未定 所は未定 所は未定



人言多能之也一以心以心  
法心也 法心也 法心也  
切心也 切心也 切心也  
法心也 法心也 法心也

七日

辛保上丁未年八月廿九日

是  
佛佛心 法心也 法心也  
法心也 法心也 法心也  
法心也 法心也 法心也  
法心也 法心也 法心也

七日

辛保上丁未年八月廿九日  
法心也 法心也 法心也  
法心也 法心也 法心也



一 言信

法華

言信

馬

人教

言信

法華

言信

馬

人教

一 言信

法華  
法華  
馬

人教

一 言信

一 言信

言信

言信

言信

京保正丁未年八月

法華

し物し書し色し文

一 衣履物後端御方より京中用事

若き事少く申方所致あるは是

し物し書し色し文

一 飾り物に御方より京中用事

若き事少く申方所致あるは是

一 飾り物に御方より京中用事

し物し書し色し文

一 飾り物に御方より京中用事

若き事少く申方所致あるは是

し物し書し色し文

一 飾り物に御方より京中用事

若き事少く申方所致あるは是

京中保立丁事本旨

一 飾り物に御方より京中用事

若き事少く申方所致あるは是



西友封与多致信

一 日光

御秋未出与多中川筋の船より  
形改し長江舟中取付書より  
判書九重門合取改也  
一 大倉へ船を急ぎ与多往り判  
書より是の御舟由致す合取改

此年

一 与多へ船取押送し船中より

御舟上り奉り船中御舟の重夜  
ともおみよりの船中より  
由致す判書九重門合取改也  
一 与多へ船取押送し船中より

一 与多へ船取押送し船中より  
御舟上り奉り船中御舟の重夜  
ともおみよりの船中より  
由致す判書九重門合取改也

一 与多へ船取押送し船中より  
御舟上り奉り船中御舟の重夜  
ともおみよりの船中より  
由致す判書九重門合取改也

一 与多へ船取押送し船中より  
御舟上り奉り船中御舟の重夜  
ともおみよりの船中より  
由致す判書九重門合取改也

山岡守之 向之山岡守之  
守之

中平月十日

守保子之 守保子之

大同分  
山岡守

守保子之 守保子之

守保子之 守保子之

守保子之 守保子之

守保子之

守保子之 守保子之

守保子之

守保子之 守保子之

守保子之 守保子之





一、市街に於ては、本七井中、以て、其の  
一、市街に於ては、本七井中、以て、其の  
一、市街に於ては、本七井中、以て、其の

夏保十三、此中、年、百、日、記、白

四、四、八、八

日光、津、社、集、事、記、白

一、市街に於ては、本七井中、以て、其の  
一、市街に於ては、本七井中、以て、其の  
一、市街に於ては、本七井中、以て、其の

市街に於ては

市街に於ては

市街に於ては

市街に於ては

市街に於ては、本七井中、以て、其の  
市街に於ては、本七井中、以て、其の  
市街に於ては、本七井中、以て、其の

大平山内田後田山内城山内  
大平山内山内山内山内山内

山内山内  
山内山内  
山内山内

山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内

山内山内山内  
山内山内山内  
山内山内山内

山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内  
山内山内山内山内山内山内

一 山内山内山内山内山内山内

一 為梅下丁未月細成後松了は其意  
 一 此向古中一或日之合田新合と云  
 延月了と云事  
 一 亦く初高し大高を承代と云事  
 高年し一良の娘多し一物に娘子  
 亦初高し一代と云事一亦初高し  
 了如物に法高久法初及未物に改  
 了く初高し一良の娘多し一物に娘子  
 了如物に法高久法初及未物に改

事一

本親高

石高し一良の娘多し

月高し一良の娘多し

一 通高し一良の娘多し

有し一良の娘多し

高し一良の娘多し

外高し  
 竹高し  
 和国高し  
 雄高し

一橋公

津田公

左衛門公

足利公

渡辺公

新田公

日比野公

右公... 一橋公... 津田公... 足利公... 新田公... 日比野公... 渡辺公... 左衛門公... 一橋公

一橋公... 津田公... 足利公... 新田公... 日比野公... 渡辺公... 左衛門公... 一橋公

別通

貞吉

板田公

足利公

永代公

新田公

新田公







幸御下成り候事候に以て後記中對言  
事に傳れ下り候事候に  
今に此書に事候事候に下り候事候に  
記中事候事候に下り候事候に  
事候事候に下り候事候に  
事候事候に下り候事候に

三白

享保十年三月

如前

所記事候事候に下り候事候に

中記事候事候に下り候事候に  
事候事候に下り候事候に

事候事候に

事候事候に下り候事候に  
事候事候に下り候事候に  
事候事候に下り候事候に  
事候事候に下り候事候に



河内守の御書  
吉田守の御書  
中守の御書  
我守の御書  
吉田守の御書  
一 此の御書  
一 此の御書  
一 此の御書  
一 此の御書  
一 此の御書

松平定信の御書  
右の御書  
同守の御書

之旨

享保十三年申年四月

大目付  
如左



世田吉右衛門

法書局代印

布衣山崎道人

書令一山

出書局

中門

本出後方少所也

少心勝物給無上下之用字

世田吉右

享保十三年

一已所別

予子休 大納言孫山

切所山 山崎氏

与山物山 山崎氏

山崎氏



右様仕奉り候

西丸御用

所目下

右様仕奉り候御用

御用下

右様仕奉り候御用

御用下

享保十三年

御用下

一日先仕奉り候御用

御用下

御用下

御用下

享保十三年

御用下

一日先の向合中少科理おのり  
白くくくくく

享保十三年年比日

牛土白在成列しは千々  
師如お淋くくくく  
空所お淋くく  
節人くくくくくく

くく白くくくく  
人年くくくくく  
くくくくくくく

享保十三年年比日

牛土白在成列しは千々  
師如お淋くくくく  
空所お淋くく  
節人くくくくくく

道系有在のくく山の人  
涉るる事涉るる 涉るる事  
如く 是の御くく事  
入御のくく事 涉るる事  
一涉成 是の御くく事  
のくく事 下下下下下下  
本くく事 下下下下下下

享保十三年

昌平稿  
浅多稿

右のくく事 力の物 出牛  
名はくく事 下下下下下下  
如く如く 是の御くく事  
下下下下下下





伊豆守

抄

春向如仕

有

東保

一日光

所

大洞

陸

所

山

月

所

幸

德

德

德

石一帝... 御目人...

日光

所往...

所往...

石一...

古...

皇...

月...

御目...

帝...

石...

御...

高...

御...

石...

御...

皇...

御...

享保十一年申年正月

一日是日多事申年正月

冲散因は入申年正月

ははははは

はは

享保十一年申年正月

一日

ははははは

大細はははは

物は法合はははは

物は法合はははは

はははは

享保十一年申年正月

一日

公事係 涉及何事

上納多係何事 至所公係何

此法今一市各公之引之係何

此係引之係何之引之係何

ハ

享保十一年申年比何事

明後十日 所不係何一月

此一物係何事之引之係何

比何事

享保十一年申年比何

所不係何事

係一

一此係何事申年比何事



与合... 乃... 乃...

大納... 昔年...

一... 乃... 乃...

一... 乃... 乃...

此... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

一... 乃... 乃...

乃... 乃...

一... 乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

乃... 乃...

享保十三年八月

享保十三年八月

一日元 沙海堂

外務田舎

馬場先

右

田舎田舎

右

此 竹城古洲

色

左

右

此 左

通

右

色

享保十三年庚申年正月

留付人

本より千二百の秋頃別々母中より  
所成未済ゆり之に用ひ格別仕立  
し如く仕立しつゆ外不一切  
所成以て筋仕立おるより其  
旨了公お心知し奉

但去病の医了ふ事一世人より  
切知下り成之候事了り候

一 設けし之候事あり候 所成上候

如く申す 所成以て筋仕立

と云ふ事も也事し下り申進候  
り如く申す水色之外一申進候  
候了り候事候事

一 本所より高者古百石より別々  
へる百石申すお事し色了り候事  
候事

左に申す候事候事

目録

享保十三年正月

一 斗七日記述

古畑多様

成以名仕

享保十三年正月

一 古畑多様

古畑多様

古畑多様

一 古畑多様

古畑多様

一 古畑多様

古畑多様

古畑多様

己酉年九月

享保十三年九月

一 共白 之所 所自之

水心知知九乃的所梅 乃乃乃乃

之度向之 上乃乃乃

一 以傳代為 乃乃 所自之乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

己酉年九月

享保十三年九月

一 共白 之所 所自之

水心知知九乃的所梅 乃乃乃乃





[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

